

IS～重火力は正義！ロ
マンもあるっけ？～

KPGver2

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

何かスランプ入ってしまったので息抜きにネタ重視のシナリオにする予定です
スランプは 書いてりや治る かもしれない
オリ主ヒロインは箒のみです。 いいよね！箒ちゃんサイコー！

目次

転生…何ソレ！楽しそ！	1
箒ちゃんとお友達になりますた(、・ω・)	5
〜)キリツ！	5
苛め？……おk、殺そう	13
白騎士事件？おkおk…まゝせてっ(n	19
☒▽▽☒) ？！	19
箒ちゃんのお別れ……するわけない	24
だろBaby？	24
箒ちゃんと恋仲になりますた(○)＊	31
▽。＊)○))	31
原作始まりますた…俺っち4組……げせ	38
ぬ	38

はみごにされたならされたなりに楽しむ	44
お(。▽。)	44
箒ちゃんとのさいk……え？何ソレ	49
誘ってんの？いただきまあああすっ！！	49
お願いだから許しちくり箒ちゃん(、；	55
ω；)	55
：ち、違う！違うんだ紅葉！違うんだ	63
ああああああああ！！	63
悲しい戦い	69
キター(。▽。)—りんりんなう！……え	75
？りんいん？サーセン…	75
箒ちゃん嫉妬？嫉妬なの？おk…今夜は	75

寝かさないぜ！嘘ですサーセン…

80

一夏と模擬戦？…固めてハメて終わりで

しよww

85

ぼくのかんがえたさいきょうのあいえず

とさいきょうのきやらww

92

りんりんが箒ちゃんとの愛の巢に襲来し

たお…帰れ!!

96

夢から現実逃避してたら遅刻しますた」

(ゝゝゝ)「ヤレヤレ

101

一夏ボコされればいいのに…ついでにイ

ベントキター(。▽。)

107

もみじくんのにちじょう(笑)

115

ガチ凹みなう………(ゝωゝ)…トホー

122

シャルさん同室なう………どうしろと？

128

転生：何ソレ！楽しそ！

何だこゝ？

当たり前真っ暗だべ

まるで俺の未来のように真っ暗ww

「おい」

そんな馬鹿なことを考えていたら後ろから話しかけられた
そつちを向くと

「リアルダンブ○ドアまじうけるww」

と言いたくなる見た目のジジイが居た

「しばいていいかの？」

「却下します」

痛いヤダもん！（・ω・）キリッ！

……おえ

男がもん！とかいうものじゃねえな……吐き気パネエす

「お前さんな？死んでもうたんじゃ」

「(。(。D。(;)。)」

死んで?まじ?

スレ建てよう

タイトルは……

” 人生お先真つ暗どころか終わってた件について(。・ω・、) ”

2秒で荒れるようなタイトルでけたww

……まあそう簡単に荒れないだろうけどさ

「んでな?お前さんには今から言う世界のどれかに行ってもらおう。いわゆる転生じゃな」

「転生キタ——(、・△、)・ω・)。D。(。△。(。△。(。△。(。?)。|?)。、|、、)——
」。E。(、D、)。(。|。)|——
」!!!!」

すっげえじゃん!

あれでしょ?転生って…

二次元行つて無双するやつ

…無双とは限らないか

「んで、その世界なんじゃが

コミュ—黒い竜と優しい王国—

装甲悪鬼村正

D i e s i r a e

インフイニット・ストラトス

どれがええ？」

一般人バッドエンド多すぎワロタ

というかIS浮きすぎww

何コレ？何でIS以外全部エロゲなの？

でもまあ

「インフイニット・ストラトスで」

「わしとしては装甲悪鬼村正とか」

「インフイニット・ストラトスで」

誰が行くか！装甲悪鬼村正とか下手に六波羅の兵士になったら間違いなくバッドエ
ンドじゃねえか！

ゴトウーザ様のキャラの所為で死ぬぞ！

確かにパンツ博士とか会ってみたいけどさ！

しにたくないお！

「なら次はお前さんの能力じゃな、お前さんはISを作れるようにかつ乗れるようにし

といたから」

「おkおk…待とうか」

乗れるのはいい…作る？

「俺っちI S作れちゃうの？」

「うむ！」

うっはw w二度目の人生モルモットもしくは働き蜂確定とかm a j i u k e r u
「ならこつちからも能力要求していい？つかさせろ」

このバッドエンド好き殺してえけどb e c o o l ってやつだ
「いいじやろう」

「素材とか材料とか無限にして」

火薬とか鉄板とかさ、うん

「おkおk、んじやお前さんは主人公と同年代に転生させるぞい」

「まった！せめて赤ちゃんはs k i p モードの方向で」

「注文おおいのお、ほれさつさと行け」

んなわけで！

俺、転生！いっくぜえ！

箒ちゃんとお友達になりますた（・ω・）キリツ！

おはつす！転生した一文字堂 紅葉（いちもんじどう もみじ）つす
もみじつて名前だけど男ダヨ？男の娘じゃないヨ？

「ほーきちゃん！ほーきちゃん！ほーきちゃん！ほーきちゃん！」

唐突だけど原作キヤラの篠ノ之 箒の前に俺登場！

「ん？どうした？」

あ、言い忘れてたけど俺つちもう箒ちゃんとお友達だもんね！

「見てみて！35m弾頭のグレネードレールキャノン！」

と自作兵器を箒ちゃんに見せる

「また、凄いモノを作ったな」

と苦笑い混じりの笑顔で返してくれる

やっぱ箒ちゃんサイコーだね！一夏だったら…

『んなもん作んなよー！』

から説教が始まるし

挙句の果てに千冬さん呼ばれてバッドエンドへ直行便だ

ちなみにこの35m弾頭のグレネードレールキャノンと言うのは
35mあるグレネード弾をレールガンの速度で発射するという物
え？電力どうすんだって？

モーマンタイ！電力も無限にしてくれてたらしいから！

あと使えそうなものとかはほとんど無限だった

無限とかいらぬのね

あ、ちなみにどこにあるかって言うと空間倉庫になるかな

けっして金ピカの王様のやつじゃないよ？

ただ…この空間倉庫、欠点があるんだよな

それは

「？何を飲んでいる？」

箒ちゃんが俺が飲んでるものを見て聞いてくるので

「ぬるいコーラ」

と答えた

そう、欠点と言うのは食料とかがぬるくなることだ

火薬とか危険な物とかは適温で保たれてるみたいなのに何故か兵器に使えないものはぬるくなる

「箒ちゃんプリクラ撮ろーぜ！」

「あ、ああ」

街中で見つけたプリクラ機に突入して撮る

箒ちゃんの肩を抱いてそのまま二人で映る

で、出来上がったのを見ると

箒ちゃんの顔が真っ赤でトマトみたいだった

「箒ちゃん真っ赤だべ」

と指摘すると

「う、うるさい!!」

と言ってそっぽ向いた

寂しいからそっぽ向かないで欲しいお（´ ; ω ; ´）

「行くぜ行くぜ行くぜええ！」

と箒ちゃんをおんぶしながら走る

「だ、大丈夫なのか？」

と心配してくれる箒ちゃんやつさすいいい！

でも！

「体力限界だけどあれを箒ちゃんに見るためなら！」

と走り抜ける

俺が目指しているのは

”最速戦士ラ○○カルグツ○○ピード！”

というアニメのOVA特別試写会

ついさつきその招待券を福引であてたのだ！

わかる奴にはわかるだろう？そのアニメの主人公が誰なのか

ギリギリで上映前にたどり着いて席に着いた

出てきた時俺が泣いていたのは言うまでもないだろう

「なんかゴメンな箒ちゃん」

「ん？何がだ？」

謝る俺に理解が出来ないという反応の箒ちゃん

「いや、今日さ？連れ回してばっかだったじゃん？箒ちゃん楽しめなかったでしょ？」

そう、今日基本的に男が行くような場所ばっか連れて行ってしまった

だから箒ちゃんがつまんないのではと思ったのだが

「それでもない。私としてはお前と一緒にいるのは楽しいからな」

箒ちゃん（ゝ；ω；ゝ）

「な、何故泣く!？」

涙を流しだした俺に慌ててどうにかしようとする箒ちゃん

「感動した!」

「そ、そうか…」

苦笑いな箒ちゃん

まあいきなり感動したとか言われたら無理もないか

「ちよつと待ってて!」

そう言つて俺は猛ダツシユで走り去る

数分後

「箒ちゃんこれ！」

と箒ちゃんにある物を差し出す

「これは？」

俺の手の中に有る物を見て不思議そうな顔をする箒ちゃん

「リボン、箒ちゃんちよつと髪伸びて邪魔そうにしてる時あったでしょ？これでまとめてみんしゃい！」

「紅葉……………ありがとう」

「いえいえ」

そう言つて箒ちゃんはリボンで髪をくくる

……………おお！

「ど、どうだ？」

…なんかね？もうね？あれだね

言葉は不要？つてやつ？

だけどあえて言葉にしよう！

「very good！」

今までの中で最高の発音で言えたと思う（・ω・）

「そ、そうか」

箒ちゃんは顔を赤らめて俯き

「きよ、今日はもう遅い！帰るぞ！」

と言つて俺の手を引つ張つていった

苛め？……………おk、殺そう

「ほつうつきつちやああああん！」

いつものように箒ちゃん家に遊びに来ますた

「やあやあよく来たねもーくん」

と未来で箒ちゃんの姉を作る人こと篠ノ之 束氏が挨拶してつた

「ちやす束さん！箒ちゃんを嫁にもらいに来ますた」

「まだ早いよ!」

あの束さんを驚かせたぜイエイ!

「でも箒ちゃんはまだ帰ってきてないんだ。いつくんともうすぐ帰ってくるんじゃないかな?」

なん……………だと……………?

これが学校が違う弊害か…

俺はその場でorzの状態になる

一緒に学校の一夏が妬ま……………うらまやしいお!

と思っていたら

「あ、帰ってきたみたいだね」

と東さんが俺の後ろを見て言った

そこには

若干機嫌が悪い一夏と落ち込んでいる箒ちゃんがいた

……………落ち込んでる? why?

「ゞ(〃。ω。ω)ノタダイマ☆箒ちゃん!」

「……………」

……………エ?

「バーン —o(・ω・)ノ—IO 帰ったじよー!」

「……………」

……………無視されたお(・ω・)

「箒ちゃんに無視された……………しろう」

「待て待て待て待て!」

どこからともなく出したロープで首吊り自殺しようとしたら一夏に止められた

「ほつといてやってくれないか? 今日箒がさ、紅葉に貰ったリボン付けていつたら虐め

られててさ。ちよつと落ち込んでるんだよ」

……………

「一夏、箒ちゃんをいじめたやつの名前と住所と見た目を教えて」

「え？住所は知らないけど名前は…」

一夏が箒ちゃんを苛めていると思われる三人の名前を言ってくれた

おk記憶完了

「ちよつと出かけてくる」

「え？おう、いつてらっしやい」

一夏がのほほんとした顔で見送ってくれる

…これから何が起きるかも知らずに

とある倉庫内

「え？あれ？」

「(トト)？(トト)だ？」

「つて!?!何だよこれ!?!」

と三者三様に驚くカス

「Ladies and gentlemen! といつてもおまんらと俺しかいないけどね」

バン!と効果音をつけて登場した俺に驚く三人

驚き過ぎm9。(。^皿^。)。プギヤーツハハハヒヤヒヤヒヤ

その中のひとりがいち早く正気を取り戻した

「お、お前がやったのかよこれ!」

「OFF COURSE!」

「なんでこんな事をすんだよ!」

「そーだ!」

ほか二人も正気に戻ったみたい

え?なんでって……

「お前らが箒ちゃんをいじめてるからだけど?」

「箒……:箒ノ之か?はっ!男女がりボンつけてんのを笑って何がおかしい!」

おk。君らの処刑法が決まった

「Show Time!」

指をパチンと鳴らすとゴミ共の碟台が変形する

そいつの耳にヘッドホン、目には映像を映すバイザー型モニター、そして極めつけの

足の裏に羽っぽいもの

さあ！拷問スタアトウ！

「「ぎやあはつはあうあ9さうふいshふあ8d8さいghふいうえhふあいw
じゅ」」

何言ってるのか理解できないお（内心：アヒヤヒヤヒヤヒヤへ（。▽。へ）（ノ。▽。ノ）ヒヤヒヤヒヤヒヤアヒヤヒヤヒヤヒヤへ（。▽。へ）（ノ。▽。ノ）ヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤへ（。▽。へ）（ノ。▽。ノ）ヒヤヒヤヒヤヒヤアヒヤヒヤヒヤヒヤへ（。▽。へ）（ノ。▽。ノ）ヒヤヒヤヒヤヒヤ（要はお祭り）

え？何が起こってるかって？簡単だよ

説明しよう！

この特殊礫台には101通りの拷問方法がある！

そして現在3つ同時に施されているのだ！

その三つとは!?

一つ！

”バイザー型モニター全面に映る超気持ち悪いオカマの山のサービスシーン（笑）”

二つ！

”ヘッドホンから大音量で聞こえる嫌な音大全! (チヨークに爪立てた音とか)”
三つ!

”足の裏をおもいっきりくすぐる羽っぽい何か。たまにくすぐり方が変わるヨ (n
▽▽▽) ♪”

という三つだ!

これを受ければ更生すること間違いない!

さあ! お前らの罪を数えろ!

翌日から箒に対するいじめはなくなったらしい

それを不思議におもった一夏が紅葉に

「何やったんだ一体?」

と聞き

「(; 旦。) オレシラナイ」

と言う怪しい返答が帰ってきた

一夏は今後一切紅葉に箒の苛め等は話さないでおこうと決めたのだった………主に
相手の為に

白騎士事件？おkおk：まくぜてつ（n☒▽☒）η！

きた……

ついにキタお！

待ちに待った白騎士事件キタコレ（。▽。）

『現在多数のミサイルが世界から日本めがけて発射されております』

とニュースでも報道されてる

けど俺ってば白騎士さんに小型カメラつけてつからそれよりもっと詳細にわかる
お

え？なんで白騎士にカメラついてんだって？

あつたからつけた、以上！

『あーあれは何でしょう!?!』

とキャスターさんが白騎士見つけたみたい

テレビと白騎士に付けたカメラの映像をじっくり見る

さあ！みしちくり、破壊するところ！

と興奮していると腕に何か当たった感覚が

それを見ると

” 空対空多弾頭格納ミサイル”

” 熱源探知式迎撃用300mmガトリンググレールキャノン”

” 以上を使用します”

と表示されたモニター

………おんやあ?

遊びで作った兵器おもちゃを使用しますとか出てるおm9。。(。^D^。)。。プギヤーツ

ハハハヒヤヒヤヒヤヒヤ

(。D。) ……

(つD(C) ゴシゴシ

(;。D。) ……

(つD(C) ゴシゴシゴシ

(;。D。) ……!?

しまった!?

と思った次の瞬間

白騎士の後方からやってきたミサイルが飛来してきたミサイルに向かってゆく格納しているミサイルを発射し多量のミサイルを激は

さらには残ったミサイルをレールキャノンから放たれた砲撃が撃墜
その結果ミサイルは一発たりとも通過せず

♪ま♪り♪

白騎士見せ場なし！

しくじったお（； ㊦、A

原作ぶつ壊しもいいところじゃん

と思ったら

『す、すごい！砲撃を躲しています！』

起動しっぱなしのレールキャノンが危険度の高い白騎士を優先で撃墜しようとする

更にミサイルも白騎士を襲う

あわわ（； ㊦、）

ま、まずは止めよう！

俺はレールキャノンとミサイルのスイッチを止める

あつぶねえ、下手したらへり撃墜してたじゃんw

まあレールキャノンとか避けたりしたからISのすごさは伝わったかにや？

あとでちーちゃんに謝りに行こつと（↑楽しげ）

「東!何だあの兵器は!」

私は東に言い寄る

「東さんも知らないよ!?!第一日本にあんなの作る技術ないよ!?!」

む。なら一体

ピンポーンとインターホンが音を鳴らす

「あれ?もーくんだ」

紅葉?何故?

紅葉がやってくる理由がわからない私達は顔を見合わせながら玄関に行き紅葉を迎え入れる

「つてわけで撃っちゃった。(。・ω<)ゞてへぺろ♡」

と事情説明と謝罪を明るくやったら

ガシツ！と頭を掴まれ

「みぎやあああああああ！」

アイアンクロー!?

あ、頭が！凹む！窪む！ミンチになるうううう！

「お！ま！え！かあああああ!!」

その後こつてり出汁すらでないほどしぼられますた

……げせぬ

箒ちゃんとお別れ………するわけないだろBaby?

おはつす。紅葉つす

なんでも箒ちゃんは束さんがISを作ったせいで幼女保護飼育プログラムとかいうやつで引越す事になったらしい

ところで幼女保護飼育プログラムってなんぞ？

「紅葉……」

と悲しそうな顔する箒ちゃん

「泣かない泣かない。また会えるって」

と笑顔の俺

「ほんとにまた会えるんだな？」

「餅ロン！」

だつて原作介入したいもん

「あ、そだ。箒ちゃんこれあげる」

イヤリングを差し出す

「これはイヤリングか？」

「イカリングに非ず！……聞いてないっすよねサーセン」

若干怖い目で睨まれたお（； 凸、）

「できる限り持ち歩いてね」

「わかった」

と言うなり耳につけてくれた

箒ちゃんやっさしい！

「ばいばい（ゞ（・ω・））」

「次に会う時までには少しは男らしくなっておけ！」

え？何ソレ（ゞノ・▽・ゝ）ムリムリ

だってこの海苔かえるつもりないっす

間違った…ノリだ

初めてか？篠ノ之 箒だ

「はあ………」

引越してから一ヶ月が経つ………

未だに紅葉の事が忘れられない

いや、忘れるつもりはないんだ……

ただ、思いださないようにしているだけ……

紅葉はまた会えると言ったがそんな簡単に会えるわけなどない……

それがわかっていいるから思い出さないようにしていた

「篠ノ之さん、ここに教えて！」

と引越し先の一歩近い小学校で出来た友人が次の授業の宿題を教わりに来た

紅葉の事はしばらく忘れるよう努力しよう

そう思っていた………

のだが……

「ほら、席つけ授業始めるぞ」

教師が授業の準備を進めてゆく

そして授業が始まり、問題を解いたり、先生に当てられて答えたりして時間が過ぎて

ゆく

授業開始から23分くらいか？

そのくらいの時に事件………というか襲来………というか………まあそれが起きた

「箒ちゃん箒ちゃん！やっべえモン作っちゃった！」

そう言つてドアを蹴破つて来たのは私の幼馴染だった

「な!?!何だお前は!?!」

と見知らぬオッサンがこっちを見て指差す

「大人なのに人に指さしちやいけないって習わなかったの？だつさあゝ」

と言り返すと

「んな!?!」

変な声上げて顔赤くなつた

おろ？

「こんのガキがああああ!」

沸点低つ!!

今時の若者でももつと沸点高いつてギャハハ（*≧≦）ノシミ☆

「待てやアアアアア!」

?（・ω・ノ）

予想外に速い！

けど………

「おっそおおおい！」

ふはははははははははは………げほげほっ！

擬似武○○金モー○○ギア スカイウォーカーモードの前では遅すぎるお！

「な!? 何で追いつけないんだ!？」

と驚く

にやらこの言葉を君に進呈しよう(笑)

「お前に足りない物！それは！情熱思想理念頭脳気品優雅さ勤勉さ！そしてなにより

もおおおお！速さが足りない!!!」

「ぎゃんっ！」

速さが足りない!!!の前に原作を再現するためにカ○マの代わりにオツサンを蹴っ飛

ばしました、(*・▽・)ノ

「見て見て箒ちゃん！このモー○○ギア！装備すれば超高速で走れる優れモノ！」

「あ、ああ」

あまりのスゴさのせいかな箒ちゃんの反応が鈍い

「最高時速400km！すごいね！流石俺！」

「そ、それはすごいな……」

　　まくだ反応が鈍いつすなあ

「そんなすごいお前は俺と一緒に来ようか？」

（ノ・人・、）??はて……?

　　つい最近聞いた事がある声が後ろから……

「ワ（。ヱ。）オ！」

　　さつき蹴っ飛ばしたおっさんが後ろに！

「さあ行こうか」

　　とハアハアしながら俺の手を掴むので

「は、初めては優しく……」

　　と女っぽく言ったら

「少し………頭冷やそうか」

　　NO!?!どうせ言うならそのセリフは東さんに！

　　あ……ああああああ！

箒ちゃん と恋仲になりますた (((〇 (* 。 ▽ 。 *) 〇)))

「箒ちゃん」

私を呼ぶ紅葉

「箒ちゃん箒ちゃん！」

急かすように呼ぶ紅葉

「無視しないで欲しいお (・ ω ・)」

寂しそうな紅葉

そのどれもが私の心を揺さぶる

やはり私はいつに…紅葉に惚れているんだろう

あいつの無邪気さとか褒められて嬉しそうな顔とか私の反応に満足してるところとか…

惚れたところを上げていけばキリがない

それほど私はいつを愛している

なら紅葉は？

私のことをどう思っているのだろうか？

好き？

嫌い？

「え？何？俺の事が好き？うわあ…勘違い乙です」

…何故だろうか？そう言う紅葉が浮かんだ

恐らく実際にそう言われたら私は立ち直れないだろう

だから告白しない…できない

あいつが私と一緒にいてくれるなら…私はどんな関係でもいい…

そう思っていたのに

「箒ちゃんの事が好きだからだけど？」

そんな言葉で考えが砕かれた

時は戻り数分前

「いやあ…大漁大漁ww」

ホクホクした顔で紅葉が顔が見えないくらいの駄菓子を持って駄菓子屋から出てく

る

「本当に凄い量だな…」

私は苦笑いしながら出てきた紅葉に近づくと

「食べる？う〇〇い棒」

差し出してきたので

「ありがたく頂戴しよう」

受け取ると

”コーンポークジュ味”

私も好きな味だった

それからはまず駄菓子を駅前にある有料ロッカーに入れて二人で街中を散策する

ユニ〇〇口でお互いの服を見たり

紅葉がゲームセンターでBLA〇〇LUEというゲームで舐めプアス〇〇ルフィ

ニツシユと言うのをして相手を怒らせて逃げたり

いろんな事をした

けれど：

遊んでいる時もずっと気になっていた

何で紅葉は私に会いに来てくれるんだ？

わざわざ会いに来るには遠い

なのにかんがりの頻度と言っていい程会いに来てくれる

丁度人気の少ない街を見下ろせる公園に来た

それを聞くにはいい場所だろう

そう思い聞いてみた

「紅葉」

「ん？何？」

途中で売っていたクレープをほおびりながらこちらを向く紅葉

…いつの間に……………

「箒ちゃんの分もあるよ？」

と差し出される

「あ、ありがとう」

受け取り一口食べてみる

……………美味しい

…じゃない！

「そ、その…紅葉は」

「ん？」

「紅葉は何故私に会いに来てくれるんだ？」

聞いてみたいという気持ち半分聞きたくないという気持ち半分

何故か？

それは返答が予想できないから

紅葉はいつも私達の考えの斜め上に行く

そのせいで振り回される事も多々あった

だから多少は予想出来る…と思えばその予想をやすやすと超えてくる

それが紅葉だ

だからどんな返答が帰ってくるのかも予想できない

そう……………

「箒ちゃんの事が好きだからだけど？」

ここの返答が来るのも全く予想できないのだ

「す……………き…？」

「うん、好き」

……………えくと

「その好きとはどういう意味の好きだ？」

どこかショートした頭で紅葉に聞く

「愛してるの好きだけど？」

「……………」

一瞬意識が飛んだ

なんといった?

愛してる?

紅葉が? 私を?

「ツ!」

理解し顔が真っ赤になる

「おうふ、どした箒ちゃん? 顔がケチャップみたいになっちゃってるぞ?」

「お、お、お前が! ああああ愛しているなどと言うから!」

「何か問題が? (、・ω・、) キリッ!」

そ、それは……………

え、ええい! うだうだと考えるのは私らしくない!

「紅葉!」

「んあ?」

最後の一口を食おうとしたところで紅葉が動きを止めた

「私もお前を愛している! そ、その…:つ…:つ、付き合ってくれ」

「告白キタ♪——o(、∇、*o)(o*・ω*o)(o*。∩)o キタ——♪」

「!?!」

突然叫ぶ紅葉に驚いてしまった

「OKっす！」

そんな返答が帰ってきた

「……………え〜とこれで私達は恋人…なんだろうか？」

「多分ね」

どうにも締りが悪い告白であった

原作始まりますた…俺っち4組……げせぬ

IS学園

ISについてを学ぶことができる世界でただ一つの場所である
但し、入学するにはISを動かせることが前提条件である

ISは男には動かせず、女にしか動かせない

故にもし、ISを動かせる男などが出れば

「ハーレムキター（。▽。）——」

となるのだろう

……この少年の盛り上がりようは明らかに可笑しいが…

「もうw k t kが止まらないねっ！」

「五月蠅いよ紅葉」

IS学園前で叫んだら一夏に怒られますた

…げせぬ

「一夏は相変わらずヘタ……………鈍k……………ホm……………枯れてるなあ」
 「おい真ん中！お前何言おうとした!?!いやいい、やっぱ言うな！」

「(「ハ、オ、ハ」) <ホモオ」

「言うなつて言つたよな!?!」

と職員室で雑談なう

一夏:…ツツコミはもう少しキレをPlease!

「黙れ」

「キネマティックツ！」

ちーちゃんに叩かれたお

「ちーちゃんぶつなんてひどいお(; 皿、)」

間違えた

「出席簿でぶつたな!?!親父にもされたことないのに！」

某ニューでタイプな初代の人風に言ってみたお((((* 。 ▽ 。 *) ()))

「いや、普通の人は出席簿なんて持ってないだろ」

「持つてるよ?！」

懐から出席簿を取り出す

「何で持ってたんだよお前は……………」

呆れた表情ごちつす、(*・▽・)ノ

「馬鹿やってないでさつさと教室に行け……………」
「どうか何故来た…」

疲れた表情(・▽・) イイネ!

咄嗟にカメラを出しその顔を撮影!

「ふむ…東さんに送ろつと」

「待て」

ちふゆ は もみじ の て と あたま を つかんだ!

I♪Y A♪N A♪Y O♪K A♪N N♪

「みぎやあああああああ!!!?!!」

君に届けIRONCROW♪(大笑)

ノーサンキュー!?!アイアンクローはノーサンキューつすよ!?

頭が!手が!ねじ切れるうううううう!!!

数分後

「ほら織斑、さつさと教室に行け」

「あ、おう」

と言つて倒れてる俺を見てくる一夏

「大丈夫か？」

「ああ、じよぶじよぶだいじよぶ」

ああ、大丈夫さ♪

「あの階段を登ればいいんしょ？」

「登るなああああああ!!!」

そう言つて俺をシャカシャカポテトが如く振る!!

「お……………」

「お？」

「お前にレインボー……………ガクツ…」

「いや意味分かんねえよ!!」

そして意識プツツンしましたとき

間違いなくm9（ハハ）プギヤーされるお

「はー！」

気がついたら見知らぬ場所……………

な如果说う台詞は一つしかあるまい

「知らない天井だ……………」

使うタイミングが違う？ モーマンタイ気にするな

「……………」

何か見知らぬ？……………どこか見たことある気がする女子からジト目向けられてるお

(＊、口、) ハアハア

あたくしドMじゃ(ぐノ・▽・) ナイナイ

でもなんで？ この女子どつか見たことある気がする！

「じゃあ次の人自己紹介お願いね」

「更識 簪です……………」

そう言ってますわる

……………更識 簪？

あ！

思い出した

原作キャラの中で数少ないメガネっ娘！

つまり！

五人目の原キャラ*・。。*:.:。。: :*。(。▽。)。*:.:。。: :

・。。 (原キャラ||原作キャラの略)

あり？

.....確かかんちゃんって4組じゃなかったっけ？

つ・ま・り

箒ちゃんと別クラスだお(。D(。モウダメポ

はみごにされたならされたなりに楽しむお (°▽°)

「かんちゃんかんちゃん！」

「かんちゃんって呼ばないで……………」

「(・ω・)」

愛称で呼んだら拒否られたお…

「さらちゃんさらちゃん！」

「……………私はさらちゃんじゃない」

「更識だからさらちゃん、おk？」

「帰って」

「(・ω・)」

愛称付けたら却下されたお…

授業開始のチャイムだったので着席するお

えらい？ 俺えらい (・▽・)？

ISの授業！

なんぞこれ？

全く理解できないお（＾＾）

お前IS作れるんじゃないの？つて？

作れるよ？僕天才だから！ww

うそですサーセン、東さんから設計図もらってつくりますた

専門用語はフィーリングで書いてもらったからわかりやすかつたお

”ぱしりお稲荷さんキャンセルで”だっけ？あれは浮く謎の力とか書かれててまじうける

え？そんなお前が本当にIS作れんのかつて？

安心しろよ！こう見えても俺、前世でスト○○クフ○○ダムガ○○ムのプラモを説明

書見ずに作つてMGボールにしたんだぜ？すごいだろ！

そんな俺に不可能はある！

カッコつかなくてサーセン：

「一文字堂くん？わからないところでもあるのかな？」

山田先生が聞いてくるお

どうやら真耶さんはIS授業の先生のようにですww

すっげえ言うのが忍びない

どうせもう一夏がやったんだろうし…

二番煎じは面白くないでしょ？

でもやるしかないお！

「はいー！」

「？」

「全くわかりません(・、ω・) ドヤツ！」

ドヤ顔で決めてみたお

「え、えええ!? 一文字堂くんも!?!」

ああ………やっぱり二番煎じだった(・、ω・、)

「おい、一文字堂」

さつきまで諦観を決めてたちーちゃんが動きだした

どうやら教師は学年別みたいですね

「参考書はどうした？」

「煮込んでたら溶けますた(・、ω・、) キリッ！」

スパン！と音をたてて頭を叩かれたお………(・、ω・、)

「お前にも再発行してやる、一週間以内に覚える」

「おk、絶対やらないっす」

再度スパン！と音をたてて出席簿が炸裂

「サーセン、自重するので出席簿は勘弁してちよ……………」

顔が歪んじまうぜ！

「やれ、やらないならどこかの国に売るぞ」

「おいくらで？」

「5円だ」

あっしの価値うま○棒以下（；ω；；）

それからもボケ続け出席簿でつつこまれる授業が終わり

ついに来ました昼休み！

篝ちゃんに会いに行くお！

「え？篠ノ之さん？どこか行っちゃった」

……………orz

「てなことがあったわけですよ」

「だからって私に絡まないで……………」

自分のクラスに戻ってきてかんちゃんど雑談なう

相変わらずつれない態度のかんちゃん（*・D・）ハアハア

つるぺた具合がまた……………（・▽・） イイネ！

おいら胸ならどつちでもいけるっす（笑）

箒ちゃんとのさいk……………え？何ソレ誘ってんの？い
ただきまあああすつ!!

「結局箒ちゃんと会えなかったお……………」

かんちゃんとも仲良くなれなかったすい…

はあ……………

え？どこにいるかって？あれですよ、寮へ向かってるんですよ

ちーちゃんひどいよね、俺の荷物勝手に持つてくるんだから……………

所持品一覧

着替え、携帯の充電器

以上

エロ本とか持つてくる気満々だったのにちーちゃんの手で焼却されたとか…

プレミアものいっぱいあつたんだぞ！

もう手に入らないものとかもあつたんだぞ!!

これはいつかちーちゃんにねこみみねこしつぽ付きミニスカフリルかつ胸元開いて

て肩から先は袖なしのメイド服で

『こしゅじんさま♪こほうしするにゃん♪』

って感じのメイドさんになってもらわなければ!

その頃

!!「?」?……………な、何だ?今凄まじく嫌な予感がしたんだが…」

と職員室で急に立ち上がりキョロキョロする織斑 千冬が居たとかww

一夏卒倒間違いないね!

あいつシスコンだからww

はあ……………

憂鬱だべえ

ぶつちやけ箒ちゃんに会えなかったのが物凄く効いたお……………

箒ちゃんが近くににいるのに会えないとか何の拷問?

こりやあれだ……………最近作った”れいとうビーム”を政府めがけて撃つしかない

な！

れいとうビーム

某黄色い電気ネズミの出てくるアニメの技と名前が一緒ではあるが関係ないですよ？……………サーセン名前拝借しますた

ISの防御または絶対防御ごと氷漬けにする事が出来るエネルギーキャノン
高確率でISに乗ってる中の人が凍死する危険なシロモノ

会長相手に使おうと開発したもののエネルギー効率の悪さと殺傷性の高さから封印した

けれど使い道あるかな？と思いISに搭載している

いいよね？俺っちにこんな拷問する政府に撃つたって？

などと考えながら寮に到達

まず思ったのが

……………金かけてるなあ

ではなく

「うはっ！女の子ばっかの寮wktk!!」
だった

「……かにや?」

紙に書かれた番号の部屋の前に到達!

まあどうせ相部屋一夏だろうななどと思ってる

だって男二人だし?

……………はあ…萎える

女の子ウツハウハなどでウホツ!な展開構築しやすい状況とかまじ萎える

IS学園到達して以来最っ高にテンション下がるはくく…

大暴落つすよほんとどうしてくれんすか、(、旦、)ノ

まあ仕方ない…諦め諦め

と…いうわけで!

ベッドダクイブ!!

ぼふつと音を立てて少し体が跳ねる

ふつかふかだあよく〇(△^)^〇

うちのベッドよりいいものじゃない?

このまま爆睡かまそうか迷うべえ

!!!!

サアアア…と言う音が聞こえるお!

KO!RE!HA!

「入浴中キター(。▽。)—!」

できるだけ小声で歓喜するお!

「おkおk、録画して誰かに売りつければがっほがっほだお(?!?)」
個人的には見たくないがお金には勝てないお!

そうと決まれば携帯のカメラモード起動!

「さてさて…」

と向かっていると

「ん?誰かいるのか?」

「!?!?」

ま、まずいお!入ってるの女子だお!

流石にカツ丼を食うのは嫌だお!

どつかで聞いたんだけど警察署のカツ丼って自腹らしいね、おごりじゃないんだって

(笑)

「同室になった篠ノ之 箒だ…よろし…く…」

出てきた女子がこつちを見て固まってるお

というか……………箒ちゃんだお!!!

そして……………エロい!!

バスタオル一枚で隠しきれてない豊満な胸に鍛えられてるからか見事と言うしかない脚線美!

そしてまだ少し濡れた感じの肌

これから察するのは

「おk、誘ってるんだね箒ちゃん!いったただつきまああすっ!」

「きやつ!」

某怪盗三世ダイブで箒ちゃんに飛びつきますた

さあ!ここからは十八禁タイムだ!箒ちゃんを頂くお(・ω・)キリツ!!

お願いだから許しちくり箸ちゃん（；ω；）

「……………」

俺の隣で黙々とご飯を食べる箸ちゃん

「このご飯美味いね！」

と話を振るが

「……………」

無視される

あの初体験からずっと無視されてるお。。。（ノ口、）。。

流石にやりすぎだったのか口も聞いてくれないお…

と紅葉が落ち込んでいるの知らない箸は

（ううう、や、やはり顔を合わせられない！）

一週間経過した今でも初体験を思い出すせいで全く紅葉の顔を見られないでいた

（初めてにはあまりに感じすぎではなかっただろうか？も、もし紅葉に淫乱などと

思われていたら!?)

(もしかして嫌われたかも……………)

こういう時にこういう二人の考えは同じだったりする

授業が全て終わったけど帰るに帰れないお

箒ちゃんに嫌われていたら…

仲直りってどうやればいいの？

……………そうだ！困ったときの！

「かんちゃんどうしよ……………」

「……………」

かんちゃんだよりなう！

整備室にいるのはわかってたから一直線できました

「どうやったら仲直りできると思えますかな？」

「……………」

……………無視されてるお（； ； ； ； ）

「あらっ！」

「これは？」

” 兵装名：山嵐”

” 第3世代技術のマルチロケットオン・システムによって6機×8門のミサイルポッドから最大48発の独立稼働型誘導ミサイルの発射を可能とする兵装”

” 現状：マルチロケットオン・システムの未完成により単一ロケットオンシステムを使用

”

……………あら？結構進んで…る？

ふむ…

「かんちゃん、マルチロケットオン・システムあげるから相談のって？」

「これなら！」

「必要ない」

………「蹴されたお…

「かんちゃんのけちんぼ」

びくっ

おろ？今まゆが動いた気が…

「かんちゃんのいじめっこ」

びくっ

反応してる…おk理解

「かんちゃんの天然！かんちゃんのおたんこなす！かんちゃんのみぬけ！」

ガタツ！

「おろ？」

「ツ！」

「あだっ!!」

レンチで殴られたお!!!痛いお!!

「かんちゃんのぼうりよくおんな！」

「………」

はあとため息つかれたお………げせぬ

「お詫びに何かプレゼント…」

「む?」

「何かプレゼントして謝ればいい……………」

「おお!!にやるほど理解!」

「あんがとかんちゃん!これあげる!マルチロックオン・システムのデータ!」
かんちゃんの目の前にデータの入ったディスクを置いてく

「え…?」

「じゃ!」

「おkおk!プレゼントだ!」

三時間後

「箒ちゃん箒ちゃん!!」

「……………」

……………無視されてるお…

でもめげない!俺えらい(^^) ? エロいのは認める!

be coolモチツケおれ

「ごめん！やりすぎたとは思ってたけど気持ちよすぎて止まらなかつた！」

「……………」

こつち向いてくれた！

「お詫びにこれ！」

食堂のおばちゃんにキッチンと材料借りて作ったお手製いちごのショートケーキ！

箒ちゃんの胸よりは硬いけど…

「お詫び？」

「うん…箒ちゃんやりすぎたのに怒ってるっしょ？」

と言うと（。D。）とされたwhy？

「怒ってる？私が？」

「うん」

……………む・ご・ん…

「いや…怒ってるわけじゃないんだ…その…恥ずかしかったのと…紅葉が……………私の事を嫌いになったんじゃないかって思うと…顔を合わせられなかつた…」

恥ずかしい……………未だに!?

箒ちゃん萌えく〜（*。▽。） || 3

「で、嫌いになつたってどゆこと？」

全く理解出来なかった一言を聞いてみると

「その……………感じすぎていただろう!!……………だから…淫乱とか思われて……………嫌われていないかと思つて…」

おk把握

「確かに箒ちゃんめちやくちや感じてたね」

「うぐ…」

「おかげでオナネタ困らないつす（ゝ・ω・ゝ）キリッ！」

「……………はあ？」

「箒ちゃんの感じてたの色つぼくてAVレベル（笑）おかげでこれからオナネタこまらな
いっすー」

と言いながら空中投影モニターを出すと

『あ…あああつ……………んあああつ……………激しつ！……………ああ……………そんなにはつ……………はげしくされたらっ！あ…あああつ……………』

「なっ!!!」

そこに映るのは初体験の時の箒ちゃん

いつ見てもエロいつす（ゝ・ω・ゝ）キリッ！

「iiiiiiiiiiiiii 一体いつの間に記録していた!!」

木刀で殴られたお。。。(ノ皿、)。。。

「いやせつかくだし記録おぼと」

「消せ！」

「だが断る!!」

「紅葉いいいいいい!!」

「(。(。皿。 ;)()」

それからしばらく部屋の中で追いかけてこしています
箒ちゃんと仲直りできたお!!

え? 初体験のデータ? 消したよ?

..... 既にバックアップは撮ってるもんね (? ▽ ?)

…ち、違 う！ 違 う んだ 紅葉！ 違 う んだ
だ あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ !!

「ん……………」

顔に日の光が当たり目が覚めてゆく

「んん〜！」

上半身を起こし体を伸ばす

「ふう……………ん？」

伸ばすのをやめはつきりした意識で部屋を見ると何から何まで違 う

「な…何だこころは？」

かなり広く綺麗な部屋にどこのお嬢様だと言いたくなるような家具の数々

そして見知らぬベッドに来たこともない寝間着

全く理解出来なかった

呆然しているとドアから人が入ってくる

「な!？」

そしてその人物を見て更に驚く

なんと入って来たのは執事服を来て所作の一つ一つが綺麗で正しく執事というよう
な

——— 一文字堂 紅葉であった

「おはようございますお嬢様」

お嬢様!?

紅葉の言葉に更に驚く

いつもの紅葉なら

『おはよう箒ちゃん』

なのに今日はどうしたのだろうか

「も、紅葉?どうしたんだ?」

「?どうしたと申されますと?」

「いつものお前は…その…きやつほー!とか言うキャラじゃなかったか?」

「?失礼ですがどなたかと勘違いなされているのでは?」

恋人の顔を見間違える者がいるだろうか?否、いまい

ならそつくりさんか

そう思い込む事にした

「朝食をお持ちしました」

「あ、ああ。ありがとう」

「では」

そう言つて去つてゆく執事紅葉を呆然と見送り食事につく

「お嬢様」

「な、なんだ?」

未だになれないお嬢様呼びに動揺しながらも答える筈

「本日もお嬢様に求婚される方々がいらつしゃいました」

求婚!?!なんだそれは!?

もはや理解が追いつかない状況になりゆき任せにする筈

そんな筈を連れ立つて歩いていく執事紅葉

「()です」

と言いながら扉を開くとそこには

「あ、ああ……ああ………」

大量の紅葉が居た

「お! 箒じゃねえか!」

その中から一際筋肉が目立つ紅葉が近寄ってきた

「どうだ箒?俺の嫁さんになる決心はついたか?」

嫁!?

「何をほざいている、箒は我が妻ぞ…貴様のごとき筋肉ダルマが近づくな!」

とかなり偉そうな紅葉が言う

妻!?

最早おかしくなりそうだ…いや既におかしいのか?

箒は錯乱してきた

「箒は……………俺と結ばれる」

とクールな紅葉

「違うよぼくだよ」

シヨタっ子な紅葉に

「俺と付き合おうに決まっとうろうが」

と少し大人びてワイルドな紅葉

他にも沢山キャラのかぶりは一切ない”紅葉”から求婚というか自分の嫁だ!と言

う宣言

さらには

「やはりお嬢様と結ばれるべきは私です」

と諦観していた執事紅葉まで参戦

「う……うわあああああああああ！」

ガバツ！と音を立てて起きる

ベッドに居たことからさっきの出来事が夢であると理解した

「むう……どした……ほうきちゃん………」

どこか眠たげに同じベッドで寝ていた紅葉が起きる

その顔を見てさっきの夢を鮮明に思い出す

そして一瞬にして考える

(さっきのは紅葉に対して浮気になるんじや!?)

明らか冷静ではないのは察せられるww

「どしたの？」

「ち……違う」

「へ？」

「……ち、違う！違うんだ紅葉！違うんだあああああああ!!」

そう叫びながら部屋を走って出て行く筈と

「……………何が違うの？」

状況を全く理解できず残された紅葉であつた

悲しい戦い

「やっぱいいいね……………人はこうあるべきだよ」

廃墟と化した街を見下ろしながら笑う少年

「ん？……………まだ生きてるのか」

偶然にも見つけた生き残りそれにISの武装を向け

「何生きてんだよ、死ねよ」

ためらいなく引き金を引いた

少年と生き残りの人の間に何かが割り込み救った

「なに……………何やってんだよ紅葉！」

「何って見てわからない一夏？壊して殺してるだけだよ？」

怒りを向けてくる一夏に何聞いてんのかと言う表情を向ける紅葉

「何でそんな事してんだ!!」

「別にいいじゃん、俺にもお前にも関係ない有象無象如きさ？」

「いいわけないだろうが!!」

そう言いながら一気に紅葉に迫る一夏

「はあー！」

雪片を振るうが

「甘いつて。戦績覚えてないわけ？1682戦0勝1682敗、それが一夏の俺との戦績だよ？一夏にISの操縦叩き込んだのも俺だしね」

雪片の柄を掴まれ攻撃を止められる

「つちー！」

「それにさ？せっかく助けたのにほら……」

と指差した方向には先程一夏が割り込んできた助けた人が今まさに鉄骨に潰され

———
死んだ

「死んじゃった♪」

「紅葉……！お前!!」

人が死んだのにも関わらず悲しむどころかむしろ楽しんでる紅葉に怒りではなく

悲しみを感じた一夏

「泣き虫なのかよお前ww」

泣きそうな一夏を見てケラケラと笑う紅葉

「……………ッ！」

そんな紅葉に予想外の方向からの攻撃が当たる

「なんだ？」

そつちを見れば

「紅葉……貴様のような奴を生かしておくわけにはいかん」

とレールカノンに向けてくるラウラ

「攻撃当てたからつて調子に乗んなよ虫虻が……」

幼馴染である一夏ですら見たことのないほどの殺意をラウラに向ける紅葉

「アンタをこれ以上好きにさせられないのよ」

「ええ、ここで止めなくては貴方はこれ以上の破壊を撒き散らします！」

「だから悪いけどここで止めさせてもらうわね紅葉くん」

更にやってきた鈴、セシリア、楯無

「ん〜」

何かを考える仕草をする紅葉

そこへ

「紅葉………」

「なにやってるのさ」

「……………」

遅れてやってきた箒、シャル、簪の三人が悲しげな表情を向けてくる

「む？………まあいつか」

そう言つて雪片ごと一夏を振り回し投げ飛ばす

「ぐう！」

「一夏！」

鈴が飛んできた一夏を受け止める

「俺としては若干の役者不足を感じ得ないけどまあそれでも十分な役者だよね」

と言うと空中にモニターが大量に現れる

「今この状況は全世界に生放送さ。で、だ」

一夏の方に手を伸ばし

「ゲームをしよう一夏？」

まるで子供が遊ぶほう！とでも言うかの如く気楽に言う紅葉

「ルールは簡単、一夏達が俺を殺せばゲームクリアで報酬は俺がこれ以上破壊活動を行わないこと。そりゃ死んだら破壊活動なんてできないよね♪逆に一夏が負ければゲームオーバー！俺は世界全てをぶっ壊す！あはははははは！」

「何……言つてんだよ紅葉……」

「さあ始めよう！世界で最も愉快で痛快で狂ったゲームを！クハハハハハハハ！！」

紅葉の言葉に涙を流す数人と殺意を向ける数人

「英雄^{一夏}が魔王^俺を殺して世界を救うか、魔王^俺が英雄^{一夏}を殺して世界を壊すか！何て愉快な喜劇^{一夏}だろうか！」

一体いつから狂ったのだろうか？

皆で楽しい生活をずっと送れると思っていたのに

どこで間違ったのだろうか？

なんでこんな未来になったのだろうか？

もう……………戻れないのだろうか？

「さあ殺し合おう？織斑^英 一夏^雄？」

そうして親友……幼馴染……恋人……友人……そういった関係を持つもの達の悲しい戦いが始まった……

ギター（。△。）——りんりんなう！……え？りんいん？
サーセン…

「はべ〜」

机に溶けるようにおだらけなう

ひじよ〜に無気力（- -、|、\、\、）

なんか箒ちゃんとは初体験やって仲直りして更にいちやつけるようになったのはいい
んだけどね？

寝る時とかね？毎日同じベッドだよ？

そんな幸せだからか

……ものすごく〜く日常がだるいおww

授業とか受けたくないお!!

拙者真剣に働きたくないでござる!!

どうせモルモットな日常しか待つてないんだから箒ちゃんとはどつか逃げつかにや？

それで箒ちゃんと俺の二人で淫欲なガチニート性活…誤字った性活……………性活

……………性活にしか変換できないおギャハハ（*≧≦）ノシ☆

箒ちゃんとの子は中隊は行かなくても小隊は欲しいおww
作りすぎワロスww

「ねえ聞いた?」

「2組の転校生でしょ?」

転向性?……………やばいお頭狂ってきたお(; ㄩ、)

「中国の代表候補生だつて」

……………えとあれだ!べちやつ子ついてーる!……………違ったりりんりんだ

あの絶壁具合は見事だと思いますですはい

でもあつしは”箒ちゃんの”ばいんばいんを好む!

……………箒ちゃんにツインテーブルに一度なつてもらおうかにや…

いや…某魔砲葬女…誤字、全力全開な魔王さまみたいにサイドテーブルもありか?

……………後で知○袋で聞くか…

昼休み

「箒ちゃん箒ちゃん!一緒に飯食うべ!」

いつも通り箒ちゃんを食事に誘いに来ますた(、・ω・)

「おおちようど良かった！紅葉一緒に」

「リア充は滅せよ！」

「げふっ！」

何か唐突にイラッ……つてきたのでジャーマンスープレックス決めましたww
げふっ！だつて！まじうけるm9。(。、▽。)。9mプギヤー

「一夏！迎えに………つてもみじ？」

入ってきたのは

「おお！その見事な絶壁具合はりんりん！」

「ああ、懐かしいわそのノリ。で？何で一夏は泡吹いてんの？」

「ジャーマン決めますた(。・ω・。)キリッ！」

「…そういうえはあんた昔つから妙にジャーマンスープレックスだけは上手かったわね」

一夏相手に練習してたから！

………その後もれなくちーちゃんにアイアンクロー決められたのは軽くトラウマつ
す(。；ω；。；)

けだめげないお！えらいよ俺(へー！)！

「一夏と一緒に食べようと思ったんだけど…」

「おk」

起こしまししょう!

「ホアチャアアア!」

伸身三回宙返り一回捻りから踵落としを繰り出すと

「グハツ!? ……つてえ何だ?」

見事起きますた!

………すつげえタフっすね一夏ww

「一夏!一緒にご飯食べるわよ!」

「え?お、おい!」

りりんがそのまま一夏を引きずって行つたお

「じゃ、箒ちゃん俺らも行こっか」

「あ、ああ…だが後で彼女との関係を教えてくれ」

「どうせ一夏達と一緒に食うつもりだからじよぶじよぶだいじよぶ」

箒ちゃんの手をとって一夏達を追いかける

「一文字堂君って何者?」

軽々と伸身三回宙返り一回捻りをやった紅葉に――全員が思った疑問であった

箒ちゃん嫉妬?嫉妬なの?おk…今夜は寝かさないぜ!
嘘ですサーセン…

「で、紅葉…彼女とはどういう関係なんだ?」

とジト目で見てくる箒ちゃん

何故にジト目なのかそこんところk w s k

「幼馴染だけど?」

なんかまじ怖いので真面目に答えますヨ

「幼馴染?」

「そ、箒ちゃんが引つ越したっしょ?あの後襲来してきたのさ」

「待ちなさいよ、襲来って宇宙人じゃないのよ?」

「ペチャパイ星人では?」

「さつきも思ったけど言わなかった事言わせてもらうわ。表出るコラ」

りんりんが怒ってるおw w

「あんたおちよくってるでしょ」

「以心伝心………もしかしてりんりん俺のことが…大嫌い…なのか!?!」

嫌いをめつちや小声で言ってみたww

「ち！違うわよ！その逆よ！」

え？その逆？マジでえ？

「俺のこと大好きなの？」

「そつちか!!」

りんりんからかうの面白いお（||、▽、||）

「ほんつと変わってないわねアンタ」

「照れるゼイ（／ω＼*）」

「うん、そういう反応すると思ってたから一応言うわね。褒めてないから」

おk把握

「……………」

むすつとした顔でりんりんを睨む箒ちゃん

「……………ちよつと紅葉」

「なんざんしょ？」

腕を回されて小声で会話なう

「なんであの娘私を睨んでんの？」

「嫉妬かじゃ？」

今も…というよりもさつきより怖い顔で俺たちまで睨まれてるお(; ;) (; ;) (; ;)

「なんでつて……………もしかしてアンタの言つてた片思いの?」

「残念無念また来てねん。おいらと箒ちゃんは両思いかつ恋人なうなのですよ」

「はああああああああ!!?」

りんりんが突然大声を出した

耳があああああ耳があああああ!! (某三分間待つてやろうの人風にww)

「ちよ…マジで!!」

「まじつすよ……………」

耳が壊れそうなう(; ; ; ;)

「よくアンタと恋人になったわね…私だったらアンタみたいなのぜつたいお断りなんだけど」

「失敬な!!これでもあつしは中学の時赤点常連だったんだじよ!」

「知ってるし威張れないしアンタが赤点なのテストが始まる前から爆睡かましてるからでしょ。挙句の果てには校門閉まる時間まで寝てるから私か一夏が引き取りに行くことになったの忘れたわけじゃないわよね?」

サーセン、今思い出しますたww

「授業とか受けたくないでござる。テストとか何ソレ美味しいの?学校なんて社会を

嫌になるための場所なんだ!!」

「黙れダメ人間」

ひどいおww

「えくとあんた箒って言ったつけ?」

「え? あ、ああ」

箒ちゃんに話しかけるりんりんと急に呼ばれて反応に困る箒ちゃん

「安心しなさい、紅葉を狙ってるわけじゃないから」

箒ちゃんに腕を回して小声でしゃべるりんりん

二人に混ざるσ(。▽。) オレオレ

「そくだよね、りんりん一夏を狙ってるもんね」

「そうs……………何でアンタが聞いてんだアアアアア!!」

「一夏はむつつりシスコンツ!!」

膝蹴りかまされたお…痛いお(ノ皿、)

「おいこら紅葉! 何だ今の悲鳴! 訂正しろ!!」

「帰れシスコン」

「そうよシスコン」

「ひでえ!」

箒ちゃんとりりんナイス連携!!

とりま箒ちゃんに蹴られたところ撫でてもらうお!

座ってる箒ちゃんの膝の上に勝手に頭を乗せる

「……………」

呆れた奴だ的な視線で見られた……………

でも撫でてくれたお!!

箒ちゃんマジ女神!!

一夏と模擬戦?…固めてハメて終わりでしょww

「紅葉頼む！俺にIS操縦教えてくれ！」

一夏土下座なうww

「ダンボール5箱のう〇い棒で手を打とう」

「地味に高いな……………」

「おk、操縦（××）オシエナイヨ」

「悪かった！俺が悪かったから!!」

分かればよろしいのだよ助手ww

「というよりも何故にあつし？代表な候補生さんがいらつしやるんじゃ？」

「う…そうなんだけどさ?…同じ男子じゃん…教えてくれよ…」

しよんぼりしすぎワロス！

「私からも頼む紅葉…教えてやってくれ」

と箒ちゃんが頭を下げてくる

「おい一夏！何やってる！さっさと行くぞ！俺からISの操縦教わるんだろ！」

「変わり身早すぎませんかねえ!」


~~~~~ (超えられない壁) ~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~ 一夏の頼み事 ~~~~~

に決まってんだろ？

「なんだろう……泣きたくなってきた…」

泣けばいいと思うよ (某EでVでAに乗る船の部品と同じ苗字のキャラ風ww)

「で、あんた誰」

「な!?!、このセシリア……」

「でだ一夏、お前ちよつと俺と模擬戦するべ」

「聞きなさい!」

うっさいドリルだな……………

合体だあ! つて言いながら頭に刺せばいいのにww

……………セシリ?……………ドリル?……………主要キャラか…どーでもいい…

主要キャラは箒ちゃんとかーちゃんとかんと束さんとかんちゃんと会長とシヤル以外興味ないお!! りんりんは仲良くなったからおまけでおk!

え? 箒ちゃんとシヤル以外主要じゃない? wi○iに書いてる? サーセン

密かにラウラは一夏とくつつけようと画策しております(笑)

会長おちよくりたい(切実)

インフィニット・ストラトスで初めて会長出た時からいじめたいと思ってたおww

今のところ”会長を苛める1027の方法”だおww

うきやきやきやきや!

「紅葉!」

んあ?

「こっちはIS展開終わってんだけど」

おうふ…トリップなうだった模様(; 彡)

…
げ
せ
ぬ

ぼくのかんがえたさいきょうのあいえすとさいきょうのきやらの きやらww

主人公

名前：一文字堂 紅葉（いちもんじどう もみじ）

性別：男

身長：173.4cm

体重：オシエナイヨ

好きな物：篠ノ之 箒

嫌いな物：うざい人、偉そうな人、醜い人

人物設定：一夏、千冬、箒、束、鈴の幼馴染。元からかなりのイケメンなのだが日頃の言動及び行動からあまりモテない残念なイケメンww。だが本人は篠ノ之 箒以外を恋愛対象として見ていないため別に問題ない。過去に紅葉に告白した女子が居たが「君に興味ない」の一言で振られた。日頃からネタなものや実用性の高いものも作るのだが大半が「飽きた」もしくは使いすぎでスクラップと化す。IS及びISの装備している兵器は“全て”自作

主人公の I S

名前：勘違いしないでよね！あんなにか重火力で瞬殺してあげるんだから！

基本カラー：紫（マブ○ヴの武○雷に憧れてww）

機体の世代：一応第四世代

見える場所にある装備

クアドラプルガトリングガン（ヘビーアームズ改EW版（緑の方）のガトリングの4
門版）×2

背部大口径ビームキャノン（実弾も可）

肩部ガトリンググレネードキャノン×2

胸部ビームマシンガン×2

腕部ミサイルポッド×4（クアドラプルガトリングガンには当たらないように発射される）

腰部衝撃砲×2

脚部多弾格納ミサイルポッド×2

脚部グレネードキャノン×2

以下拡張領域の武装

れいとうビーム

356mmレールキャノン

トリモチランチャー

後数個の武装（これは使う予定があるのでひゅみゅつゅ）

ポップコーン（消費期限切れ）

カビの生えたレーズンパン

液体洗剤

粉末洗剤

布団

割り箸

目覚まし時計

小型テレビ

漫画下巻

機体設定：束の協力により独自で作り上げた第四世代型IS。第四世代ISなのだがパッケージが近接、砲戦、圧殺の三種類ある。最も性能が高いパッケージは圧殺。何故こんな名前なのかと言うと紅葉が作ったツンデレキャラクター（ボーカロイドみたいな）にそのセリフを言わせて、たまたまその時このISの音声入力不幸にも起動して

おりこんな名前になった。拡張領域に関係無いものが入ってるのは空間倉庫と間違っ
て入れているためである

字堂 紅葉

筆者：一文

りんりんが箒ちゃんとの愛の巢に襲来したお…帰れ!!

「ん〜」

「どした一夏？ マナーモードの携帯みたいに唸って？」

「そこは唸ってだけでいいんじゃない？」

気にするな

「いやな？ 鈴が俺の同室の人に変わってもらうって言ってたんだけどさ？」

……………そう言えば原作だと箒ちゃんだっけ？

あれ？ 誰だ今の一夏の相部屋の人？

「俺の同室ってさ、千冬姉なんだ」

りんりんオワタ＼（ω^ω）／

「何で一夏の相部屋が千冬さんなのよ!!」

「無意味な愚痴乙」

りんりんが愚痴りに来た…帰って欲しいお

箒ちゃん二人っきりのラブタイムを邪魔しないで欲しいお
せつかく箒ちゃんに膝枕してもらったりするつもりだったのに（##。D。）イライ
ラ

「せつかく私の色気で一夏を誘惑しようと思ったのに」

「いwwwwwwwろwwwwwwけwwwwwwまじうけるwwwwww
wwo」ノミ☆ばんばん」

「冗談をマジにしないでよ……」

「冗談だったら面白くないお（——ω——）」

「りんりんひんぬーだから誘惑とかむりぼ乙」

「ねえ、ホントにアンタの彼氏殺していい？」

「諦めろ」

拳を握り締めてるりんりに諭すように箒ちゃんが言う

……………即答であんな言葉が出るって事はあつして箒ちゃんに諦められてるん
でしようか？

「しかも一夏の奴私との約束間違えて覚えてるのよ！」

諦めたのか愚痴が変わったおww

「どーせあれでしょ？『ねえ一夏、私が料理が上手くなったたら毎日私の作った酢豚食べて

くれる? (鈴の声で)』とかでしょ?」

「アンタってホント無駄に鋭いし変な技術持つてるわよね」

「そうでもない (千冬の声で)」

声帯模写は趣味ですww

「あいつって」「(´^o^)`」ホモオだから」

「……………嘘でしょ?」

フリーズしてたお(シ、マ、)

「嘘です(、ω、)キリッ!」

何かマジに取られかけた……………

一夏…お前さんホモ疑惑かかっているぞいww

「ねえ、この怒りどうすればいいと思う?」

「りんりんクラス代表でしょ? 今度の行事で一夏ボコればおk」

ちなみにあたくしはクラス代表をかんちゃんに押し付けました

かんちゃんにジト目で睨まれたのはいい思い出ww

「そうよね……………そうよ…一夏をボコればいいのよ!!」

「結果一夏に振られるりんりん乙」

「……………よく考えたらボコってくる相手に惚れるなんてまずドMじゃない限りあり

えないわよね……………」

落ち込みだしたお

さつさと出て行って欲しいお…こっちは箒ちゃんといちやつきたいんだ(##) ㄐ

。) イライラ

と思つてたら

「…?」

見ると何かに握られた…誰かに握られた手

「……………」

箒ちゃんが握ってくれてるお!!!

(こうしておくから相談にのってやってくれ)

とアイコンタクト

おk

もうね?ぼくちんのテンションね?

キタ*。。*:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.:.*:.:.:.:.:.:.:.:.*:.:.:.:.*!!!!!!

ですよ

「りんりん…何でも相談するが良い。一夏の弱点、好みのタイプ、黒歴史、持つてるエロ

本の傾向。何でも答えてしんぜよう！」

「篠ノ之さん……………いえ尊敬と感謝を込めて箒って呼ばせて。ありがとう箒」
「気にするな」

おんやあ？礼を言う相手が違うのでは？

それからしばらくりんりんの一夏を惚れさせようの会が続いたお

夢から現実逃避してたら遅刻しますた」(´・`・´)
 「ヤレヤレ」

「紅葉……………」

「!?」

う、後ろを取られた!?この俺が!?

「イ、一夏アハナイカドウシタ?」

カタコトだお……………あまりの悪寒に腰抜けそうww

「なあ、箒と別れるよ」

「!?」

何故こいつ俺と箒ちゃんが付き合ってるの知ってるの!?鈍感、ヘタレ、唐変木オブ唐変木、究極のシスコンであるこいつが気づくなどありえないお!!

それより何故でしょう?悪寒が凄いいお……………

「箒と何て別れて俺と付き合えよ」

「f s h g h s ーうい b s づ b v し d b e f v ばせい b s ; j d k b じゅ g d s」

what!? why!?何が起きてるのか理解できないお。(´・`・´)!!!!

「お前の事…ずっと好きだったんだ……………」

ぎやああああああ!!聞きたくない聞きたくない!!

「どうしても別れないなら……………俺が…忘れさせてやるよ」

へるうううぷ!!箒ちゃんへるううううぷ!!

「近づくな!!!キモイ!!!」

「恥ずかしがり屋だな」

ぎやああああああ!!!一夏の奴止まらないお!!

ああ、おいらどうなるんだろうか?

「いくぜ」

あ……………あああ……………ああ!!

!!!!ア

ツ

「……………夢でよかったお（；▽；）」

あんな腐女子お好みの展開とかなってたまりますか！

カサッ

？何の音…？

カサツ

.....枕の下？

「.....」

.....やばいお

.....精神衛生上とっても良くないものを見つけてしまったお

.....というよりも何故俺の枕の下に置いてあるの？

”一夏×紅葉くお前を寝取ってやるよ”

誰だ！こんな嫌がらせ俺の枕の下に置いたの！

アーーーーーー！な展開なんてお断りだお！

.....何か気持ち悪いお

箒ちゃんの胸に顔埋めて癒されるお（*・D、）ハアハア

「ん.....紅葉？」

...起きちゃったお

「箒ちゃん寝てていいよ」

「.....何をしてるんだ？」

自分の胸の所に有る俺の顔を見る

「箒ちゃんの胸に顔を埋めてヒーリングなう」

「そうか…」

「むぎゆ…」

抱きしめられたお（（○（*。▽。*）○）（）

箒ちゃんのオパイ柔らかいお（*、ω、*）

………着物越しでも柔らかいとは…篠ノ之 箒、恐ろしい子!!

このまま熟睡するお

☆GOODNIGHT☆（||、ω、）ノ

………

「はあはあ……」

「ひい~~~~」

ただいま箒ちゃんと共に全力疾走なう!!

もの見事に寝過ごしたおw w

あまりにも箒ちゃんの。▽。○ミ。 オツパイ オツパイが気持ちよすぎて爆睡

かましてたお（； ㄩ、）

箒ちゃんは箒ちゃん

「お、お前の温もりが気持ちよくて…」

っていう理由らしい

ふたり揃って遅刻確定済みなのに……………

「遅刻が決まっても少しでも早く着こうとした意識は見せなければ！」
という理由で全力疾走なう！

「一文字堂、お前はグラウンドを20周だ」

クラス違うのにちーちゃんに怒られたお…

……………とてつもなくげせぬ

一夏ボコさればいいのに……ついでにイベントキター

(。△。)—！

「あ……そろそろ始まりますね」

まやまやが言う

何が始まるって？

あれですよ

りんりんの一夏フルボツコタイム……誤字ったクラス代表戦だ

そんな事言ったら死合……ちがった試合が始まった

「一文字堂……お前から見て一夏に勝ち目はあるか？」

「なし」

ちーちゃん聞かれたので即答なうww

だつて一夏って全然なんでもんさ

へっほこすぎる…………主人公補正さまさまワロス

銃口向けられてるのにいぐ……いぐ……いぐ…………忘れたお(・ω・)

まあとにかくブーストで突っ込んでくるから見事蜂の巣ww

おばかの一言だね!

「の割に戦えてるぞ」

「((。∩。;)」

ほんとだお…一夏がまともに戦ってるお…

つまんないお(ーωー)

せつかくボコにされるのを期待してたのに…

それからも互角の戦いが続いてるお

「(・ω・)」

「面白くなさそうな顔をするな紅葉」

「だってさ箒ちゃん、せつかく一夏の隠し玉のいぐ………なんちやらほんちやらをりんりに教えて一夏の戦法も教えたのにボコつてないじゃん。つまんないお!!」

………どうでもいいけど箒ちゃんのお尻開発したいお(性的な意味で) w w

「痛いお!?!」

箒ちゃんに木刀でぶたれた!

………その木刀どこから出したの?

「お前が変な事を考えるからだ」

箒ちゃんと以心伝心((o(*。▽。*)o))

「な…仲がいいんですね」

まやまや苦笑いなう

「ヴァカめ！人のものさしで測れる程ちっぽけな仲ではないわ！……………wait
ちーちゃん待って、にじり寄ってこないで！やあの一アイアンクローはやあの一！」

「ちーちゃんと呼ぶな」

「ならちーたん」

「……………」

「みぎやああああ!!む、無言のアイアンクローはやあのおおおお!!」
箒ちゃんの脇腹ペロペロしたいお……………」

「……………」

ほうきは ぼくとう を ふった！

「二回目の木刀ゴチです…」

「あ、あははは……………」

もはやどう反応したらいいのかわからないまやまや乙です

つと…そろそろかにや？

混ざりたいし準備しますかにや

「?……………紅葉？」

さてとつと

IS展開なうww

混ざつちやうよろ

「ISを展開して何をしてるんだ？」

「あ？」

…篝ちゃんがいるお……

「…えーとね」

言い訳を熟考してたら警報が鳴ったお

…アリーナ見たらもう居るし！

出遅れたお!!

「あれに混ざつてくる！」

指差して示す

「……止めても無駄だろうから…せめて無事で帰ってきてくれ」

何か死亡フラグ立ちそうな台詞じゃない？死にたくないお!!

「おkおk、じゃー！いつてきまーす」

カタパルトから発進!

あ!某ニューでタイプな人の名言言い忘れたお!!

萎えるわ〜…

「?…紅葉!」

「チャオ一夏、遊びに来たおww」

「遊びについてお前…というか鈴に俺の戦法とか教えたのお前だろ!!」

「(; 旦) オレシラナイ」

「漫才やってないで真面目に戦いなさいよ!!」

りんりんに怒られたお(・ω・)

しばらく避けるに徹していたら

「紅葉!一夏!何をまたもたしてて!男ならさっさと倒せ!」

箒ちゃんが放送で言う

え?俺今参加したのに何その無理ゲーww

「!」

ISが箒ちゃんを狙ってる!?

ヤベエ!!

「箒ちゃん!!」

「!」

砲撃と箒ちゃんの間割り込む

「あ…ああ…も、紅葉」

「……………モーマンタイよ箒ちゃん」

箒ちゃんにサムズアップ!

ダメージ?あるわけないお。(°▽°)。ギャーハツハツハツハツハ

ハツハツハツハツハツハ!!

「ちよつと待ってて、瞬殺するから」

もうね?俺の怒りがブレイクタイムですよww

「パッケージ、圧殺起動」

俺たちの専用機最高のパッケージこと圧殺君ですよ♪

文字通り弾幕で圧殺するから圧殺ですよ♪

あ、そうだよ

「一夏、りんりん、邪魔したら消しちゃうよ?」

「了解です!!」

一夏とりんりんが敬礼してきた

おk、じゃあ始めるべ

見事なスクラップと化したではありませんか♪(某家をリフォームする番組風ww)

「ふう終わったお…どした一夏、りんりん?」

「いや…」

「なんでもないわ」

(怒らせたら俺(私)もああなるのだろうか?)

すつきりしたお!

戻ったら箒ちゃんに撫でてもらおうお!

もみじくんのにちじょう（笑）

「ん〜こつちを上げるべきだと思うよ？」

「でもそつちを上げるとこつちを上げられない…」

かんちゃんのISS制作お手伝いなう

あの無人ISS？……………消し飛びましたが何か？

おかげでちーちゃんに

「もう少し形を残せ！そうすれば調べられたものの…」

と理不尽な説教されたお……………げせぬ

その事とかは乱交例？……………違うな…なんだつけ？

……………思い出せないお〇……………ノミ☆ばんばん

まあどうでもいいや！

それよりも！

「ねえねえかんちゃん！このISSに…」

「却下」

「まだ途中までしか言っていないお（；ω；）」

「どうせ」 ロマンのある武装を積もう」……………もう50回は聞いた」

おうふ……………そんなにいってたのか

「じゃあつ」

「却下」

「……………（；ーωー）ちえつ」

「追い出されたい…?」

「サーセン自重しまふ」

だからオムレンチみたいなサイズのレンチを向けないで？ぼく死んじやうよ（
、）グスン

「……………ねえねえかんちゃん」

「……………何」

「暇だお（、・ω・）キリツ！」

「出てって」

……………追い出されたおww

「暇だにや〜」

「え、えくと…」

職員室でまやまやの隣なう

ちーちゃんいないなら誰も俺を止められないお!!

「おろ?これはこの前の小テストの!」

どうやら我が担任の机だったようです

おk、改竄しろって事ですね理解ww

「えくとペン〜ペン〜♪」

「ほら」

「サンクス……………?」

おや?ちーちゃんの声が?幻聴かにや?

「何をしている?」

「ε||ε||ゞ(∴)∩()/」

「逃がさん」

捕まったお……………

頭に手が!?

(しばらくお待ちください)

「酷い目にあつたお……………」

くそう……これは一夏で憂さ晴らししなければ!!

「というわけで来ますた（ゝ・ω・ゝ）キリッ！」

「あつそ」

「好きにしてなさい」

「え……………えくと……」

もはや俺の行動には慣れた幼馴染sとあわあわするセツシー（仲良くなりますたw

w）

……………セツシーってネス湖に現れた怪獣（仮）みたいな名前だよねww

「アーーーーーッ!!」

「織斑姉弟は俺に恨みでもあるのか〇(ω*)〇プンスカプンスカ!!」

もうこうなったら箒ちゃんに癒してもらおうしか……………

「ああ、一文字堂くんちょうどよかった」

「？」

なぜまやまやなう？

「部屋の調整がついたので篠ノ之さんは別の部屋に移動です」

……………今日は厄日か

俺がなにをしたんだ!!

ガチ凹みなう…………… (´ω`)・・トホー

「へぼ〜」

机にべったりなう

箒ちゃんの寝てたベッドで睡眠したものの、起きたら箒ちゃんがないのでテンションダダ下がり

やる気でないお

「ぼへあ〜〜」

「うるさい」

…かんちゃんがひどいお

「…」

「…見ないで」

…………… (´;ρ、) グツタリ

もはや授業参加する為のテンションすら残ってないお…

テンションあげるために箒ちゃんに会いにいくお…

「で、なぜお前がここに居る」

ちーちゃんがこつち見てきた

「授業サボタージユなう」

箒ちゃんを後ろから抱きしめたまま答える

箒ちゃんの匂い箒ちゃんの匂い箒ちゃんの匂い箒ちゃんの匂い（*、*、*）ハア

ハア

「…」

箒ちゃん俯いてどした？顔赤いよ？

…首筋ぺろり

「ひあっ!？」

いい反応だお♪

「デュノア、その産業廃棄物を4組に引き渡してこい」

「え？え？」

デュノアとな？

そつちを見ると

おおシャルだ！

確かに男装美女だにや

けど今は…

「箒ちゃん♪」

箒ちゃんを堪能するお！

「デュノア、早くしろ。ISを使つて構わん」

「あ、はい」

む！俺と箒ちゃんを離そうとする悪魔m

「ギャプラン!?!」

…出席簿で殴られたお…：：：教○委○会に訴えてやる（#。∩。∩）ムツキー
「安心しろ、教育の一環であつて体罰にはならん」

なんという理不尽か…

これが噂のDVなのね!?!（ちがいます）

「じゃ、行くよ?」

「おろ?」

いつの間にかシャルさんのISの手につままれてる俺ww

「横暴だ!」

「それは僕じゃなくて織斑先生に言おうよ。それに授業をサボる君が悪いと思うよ？」
（もつとも（・ω・））

「さて、ここから箒ちゃんを観察しますかによ」

ん？教室に連れて行かれたんじゃないかって？

甘いわ！吾輩、あんな程度で連行されるほど愚かではござらん！

ぶっちゃけ変わり身の術使いますたww

今頃シャルさんは気づかずかずに4組にいるんでしょうなww

「箒ちゃんは〜」

…居たお！

「ムフフ…相変わらぬいい体型してらっさる」

これは映像保存しておかねば!!

ちーちゃんに専用機持ち毎に別れるとでも言われたのかバラバラになった

「む、箒ちゃんはりんりんの班か」

…なんかもつたない組み合わせ……

「ここはセツシーとで胸デカな二人つて感じになればよかったのにい
……………いやこれはこれで（ノ。D。）よし！」

姉と妹的な感じでww

キター（。▽。）——りんりんの班は次箒ちゃんだお！

「おkおk、録画録画。網膜に焼き付けるのも欠かさずに♪」

準備かんりよ……………はにや？

「ちーちゃん？何を？」

箒ちゃんとちーちゃんが何か会話してるお

「ブレード？何故？」

箒ちゃんが突然ブレードを取り出しちーちゃんに渡す

そしてそのブレードをちーちゃんが上に向けて投げた

「何してんだろ？」

気になってきたお

よし…もうちよい近づk…

め、目の前にブレードが降ってきたお!!??

あと少し前に出てたら…

「（（（（；D。）（ガクガクブルブル）」

これは警告か？

……………これ以上やったら殺されるお

……………帰ろ…

「箒ちゃん帰ってこないかにや〜」

部屋のベッドなう

もちろん箒ちゃんが使ってた方

「うば〜…退屈だお」

ゴロゴロしてるとノック音が聞こえた

「?……………まさか箒ちゃん!？」

おkおk…あけますよ〜つと

「ほ……………お?..」

「あ、同室になったシャルル・デユノアです。よろしくね」

……………箒ちゃんじゃなかったおorz

シャルさん同室なう……どうしろと？

「…」

居心地悪いお…

どうすつかにや〜……………俺は口の軽さには定評がある（・ω・）キリッ！

あやうくシャルさんに

「あんさん女っしょ？」

とか言っちやうおww

それは俺じゃなく一夏の役目だお!!

ああ……………しばらく箒ちやんが帰ってこないと思うと…

「だる〜」

「……………だるそうだね…」

「テンション大暴落なう……………」

「あはは……………」

…苦笑いされたお…

「……………ねる」

「早くない？」

「モーマンタイ……………☆GOODNIGHT☆（；D；）」

「う、うん」

z z z z z z ……

「どうしよう……………」

僕は自分が寝ていたベッドの隣のベッドで寝る彼を見る

朝食を摂ってそのまま学園へ向かおうかと思っただが同室ということもあり一応見に来た

時刻はもう朝食を摂っている余裕は無い

そんな時刻なのに

「z z z z z z」

未だに爆睡していた

…起こすべきなんだろうね

「一文字堂くん、起きないと遅刻するよ」

起きれるように揺する

「……う〜ん」

起きたかな？

「……そつちに行く……行く……Z Z Z Z Z Z……」

行くと何なの!?

「……ほ、ほら早く起きないと!!」

今度はさつきよりも強く揺する

「……」

むくりという感じに上半身を起こした

「あ、おきt……」

「ば……」

「ば?」

「バンカーと射突以外は近距離じゃなく中距離武器……Z Z Z Z Z Z……」

と言つてまた寝る

何で!? ブレードとかは完全に近距離武器だよ!?

抱きしめられる感じになっている

「むうく……すんすん……」

「うひやあ!？」

に、匂いを嗅がれてる!？」

あ、え、えと、えと!!?？」

「……………う……ううう、うわああああああああ!!！」

思わず天井側の手で一文字堂くんの顔を殴る

「コジマツ!？」

変な悲鳴を上げたがそれを気にせず走って出て行く

「痛ひ……………」

朝起きたら顔に激痛……………理解不能なう

「くっそう……………最近厄日なのか?！」

と思いつつながら時計を見る

(。 ㊦) . . .

(つ ㊦) (ゴ シ ゴ シ

(; ㊦) . . .

(つ ㊦) (ゴ シ ゴ シ ゴ シ

(; ㊦) . . . !?!

Y A ♪ R R A ♪ K A ♪ S I ♪ T A ♪

二日連続遅刻確定 w w

これがここ最近箒ちゃんに起こしてもらってた弊害かつ!!??

お k

「.....もつかい夢の世界へε||「(; . ∇ .) L イ ッ テ ミ ヨ !!」

z z z

「で?」

ちーちゃんからの呼び出しなう w w

「寝坊しますた (. ω .) キリッ!」

